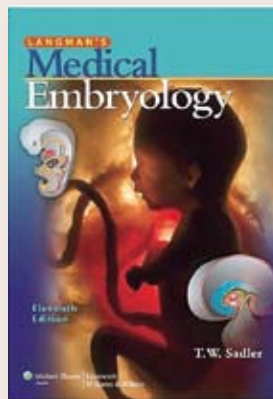


Langman's Medical Embryology

出版社: Lippincott Williams & Wilkins
著者: T. W. Sadler
価格: \$62.95



私がこの本に出会ったのは、大学三年生の時である。まだLangman著のMedical Embryologyというタイトルであった。その頃の私は、勉強よりも写真が好きで、医進課程(教養)で英語を再履修したり、ドイツ語で再試験を受けたりと、お世辞にもできのよい学生とは言えなかった。専門課程に進級しても、何となく日々を過ごしていた。三年生の秋から始まる解剖実習に明け暮れていた頃、この本を読まないかと誘いを受けたのである。学生が八人くらいと解剖学教室の若手の先生方という顔ぶれであった。読み方は、逐語訳で、週に一回の輪読で十ページも進まず、全部読むまで一年半ほどを要した。

この本の紹介に戻ろう。Embryologyは日本語で発生学という学問領域である。この本は、ヒトの受精から出生までを分り易い図とともにダイナミックに記述している名著である。また、Medicalとあるように医学的な観点からさまざまな奇形がどのようにできるか詳細かつ分かりやすく描写してある。医学系の学生のみならず、生命科学系に関係する学生諸君に手にしていただきたい一冊である。また専門用語のギャップはあるものの、少し頑張れば他分野の方も読むことは可能である。生命の神秘に触れ、自分を産んでくれた親に感謝できる。英語は簡明で読みやすいが、邦訳が必要な方には、ラングマン人体発生学(メデイカル・サイエンス・インターナショナル)がある。

この本だけではなく、この本を読んだような読み方も勧めたい。仲間と先生が集い、授業の単位とかそういうものに縛られずに、一つの書物を原文でじっくりと自らの意志で読み進める。そこから得るものは小さくない。少なくとも私にとって、この本を読み通すことで、それまで失いかけていた勉学への意欲を取り戻し、苦手意識のあった英語に抵抗感が減った。私が解剖学に道を進めたのもこの本に出会ったことと無縁ではないように思う。

年間後記



節分そして立春、この頃はいつも年間後記で苦しんでいます。春告鳥のようなものでしょっか。今回も、最後の最後にエンジェルが指先に舞い降りてくれました。どこをどう苦しんだか、行間から読み取っていただければ幸いです。

厳しい原稿の提出を迫る編集者を追い払わんと、節分当日、学生を誘い豆まきをしました。鬼の形相で、「鬼は外!」と叫ぶ私の姿は、さそかし滑稽だったことでしょう。

鬼といえは、十八番「芝浜」の出来に納得できず引返し、昨年鬼籍に入られた名人五代目三遊亭圓楽さんの座右の銘は「得意平然 失意泰然」だったそうです。得意平然とは、望みがかない満足しているときにも浮つることなく、何事もなかったようにしておくことです。しかし、世情はこれを許しません。市井にはもつと立派な人々がいることを慮り、謙虚であることが美德とされてきた時代は遠い過去となったようです。「自分で自分を褒めてあげたい」を超えて、私は凄いいことをしています、立派な業績を上げています、とその仕事ぶりをアピールしなければならぬようです。

泰然であるためには何が必要なのか、そのヒントを、テレビから聞こえてきた「経済には負けただけ、技術に負けただけではない」という一言が教えてくれました。声の主は、宮城県気仙沼市で造船(流体力学)では常識とされる技術を、建築(構造力学)に応用し、斬新な建物の数々を創り出している高橋工業社長高橋和志氏でした。

「経済に負けた」とは、江戸時代から続いていた家業の造船会社が一九八五年に倒産したことを指しています。しかしすぐに鉄工所を立ち上げ、漁師の命を守り続けてきた造船技術への誇りを支えに腕を磨き、捲土重来を期すことになりました。そして、転機は訪れます。気仙沼市の美術館建設で披露した金属の曲面加工技術が、衆目の認めることとなったのです。

失意の時にも、泰然としていることを許したのは、蓄えられてきた技術と知恵、そして日々の精進。求められたのは、その活かし方と活かす場所。

人も組織も得意と失意の間を揺れ動いています。揺れに翻弄されることなく、揺れを愉しむその術は、私たちの現在にあるはず。然すれば、遠方より来たる鬼との出会いも、また楽しからずや。

より難しいのが、失意泰然。望みかなわず不遇なときでも、じたばたせず落ち着いていることです。

(編集委員長 小松泰信)

より良い広報誌を作成するために、みなさまからのご意見・ご要望をお待ちしております。取り上げてほしい話題、質問したいことなど、何でも結構ですので、右記連絡先までお寄せください。

岡山大学広報誌

第54号
2010.2

発行/岡山大学総務・企画部総務課
〒700-8530 岡山市北区津島中1-1-1
TEL. (086) 251-7292 FAX. (086) 251-7294
E-mail. www-adm@adm.okayama-u.ac.jp
<http://www.okayama-u.ac.jp>



創立60周年
2009